1、　本部制予算制度について

今議会、総務常任委員会、最後の質問の機会をいただきました、大場でございます。

県議会議員、当選以来、１年を迎えようとしています。早いとも思いませんが、私自身にとって充実した１年でありいい仕事を与えていただいたなぁー、と思っています。しかしながら、政治活動については、よく理解しているのですけれども、県庁内のこと、税制のこと、財政のこと、あまり理解いたしておりません。でも、一口に言えば、県には、お金がないなぁーとは、理解いたしたところではあります。

本年度の当初予算は、３，９３０億円となっており、平成２年度　当初予算以来１８年ぶりに予算規模が４，０００億円を下回ったところにあります。

そういう、全体予算が減ってきている・・・、反面、県民要求は増えてきている中、平成２０年度の予算編成にあたっては、よくここまで積み上げてこられました。さぞかしご苦労されたことと推察するところでございます。その２０年度当初予算については分かったことにして・・・・

とはいえ、あまり分かっていない、私が質問するのですから、時には、ハズス事があると思います。そのときは、分かりやすく教えるつもりでお願いを致します。

まずは、予算制度についてお伺いいたします。

県は、平成１６年４月に組織を抜本的に改正し、本部制に移行されました。これに伴い、平成１７年当初予算編成から、**本部制予算制度**を取り入れられてありますが、この本部制予算制度について「あまり分かっていない私が」疑問を感じたところがございます。

佐賀県みたいに、予算枠制度を採用している自治体も増えてきているようでありますが、私は、本部制よりも、トップがというよりも、トップというのは、知事を含めて若干名、数名、の人が県全体を俯瞰（ふかん）しながら、俯瞰というのは、難しい言葉ですが、天山の頂上から県全体を見渡すと言う様なイメージであります、そうゆう広い気持ちで、一方では勇気と英断をもって、必要性や優先順位を考慮し予算編成をしていった方がいいのではないかなと思ったのであります。

特に、今日のように財政状況が厳しい中では、ある本部のこの事業は止めて、というより延期をして、今年度は別の本部に予算を回した方が

効果的な予算になるということがあるのではないかと思ったところであります。

例えば、校庭の芝生化の予算についてでありますが、こういう取り組みを何ら否定するものではございませんが、せめて緊プロ期間中は、我慢してもいいのではないか。また、建設業の**合併促進支援事業**については、私は必要ないのではないかと思っています。それは、買収はありえても合併はありえない。買収には血税を使う必要はないと思うからであります。

こうした予算をほかの本部に回して、県全体として　もっと必要な事業に振り向けた方がいいのではないかということでございます。

ついては、このような問題意識から、いくつかお伺い致します。

（１）（まずは）**本部制予算制度の考え方についてであります。**

先ほども申し上げましたように、かつてのような知事査定をトップとする査定方式のほうが、県全体の優先性を判断しやすいのではないかと考えますが、本部制を採られた考え方についてお伺いいたします。

【答　弁】

（２）（次に）**厳しい財政状況の中での対応について**であります。

お金がたくさんあるときには、本部制でもいいかなぁと思いもするのですが、今日のような厳しい財政状況の中では、知事のいう「充点項目」とか、メリハリをつけなければいけないわけで、そのためには予算が厳しい間だけでも査定方式に戻してもいいのではないかと思いますが、いかがでしょうか？

（答　弁）

（３）（次に）**全庁的な調整についてお伺い致します**

厳しい財政状況でありますので、必然的に本部予算枠の中も、厳しい状況にあります。ガッツガッツでやっていらっしゃる事は誰もが理解するところでございます。

しかし、新に必要となった重要な事業があってもなかなか予算化が難しいと　いうこともあるのではないかと思うのであります。

そういう場合には、本部だけで対応させるのではなく、全庁的な調整があってもいいのではないかと考えますが、…何かそうゆう仕組みはあるのですか？

（答　弁）

（４）（この問題の最後でありますが）**今後の予算編成のあり方についてでありますが、**

本部制予算制度にしても査定方式にしても、それぞれメリット…デメリットがあると思われますが、それぞれの長所を合わせて、短所を補うようなやり方があればいいなと思います。

ついては、今後とも、難しい財政運営は続くと予想されますので、今の制度をガチガチのものとして、いささかも見直さないという姿勢ではなく、見直すべきところがあれば柔軟に対応して欲しいと考えますが・・・いかがでしょうか？

（答　弁）

ありがとうございました。